

## 口頭発表C①

# 高校から大学への教育をスムーズに接続するために何をすべきか？ ：インタビュー調査で見えてきた、徳島大学教員の認識

古屋 玲<sup>1</sup>、荒木 秀夫<sup>1, 2</sup>、三好 徳和<sup>1, 2</sup>、齊藤 隆仁<sup>1, 2</sup>

<sup>1</sup>徳島大学全学共通教育センター

<sup>2</sup>徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

## 1. 背景と動機

本調査を行なった背景は次の二点である。ひとつは、少子化の進行と大学進学率の上昇、入試科目選択の多様化に伴って、徳島大学においても、「基礎学力に疑問を覚えざるを得ない新入生が増えた」と認識する教員が増えたことである。二つ目は、中学校と高等学校における理数科目を中心とする、履修内容の見直しに伴い、(新課程による高校での学習を終えた新入生が入学する)2015年度以降の学生の基礎学力を懸念する教員が多いことである。

このような現状を踏まえ、徳島大学全学共通教育センターにおいても何らかの対策を講じるべきか否かを見極めなければならず、教員がどのような認識を持っているのかを把握する必要があると考えた。

## 2. 調査方法と調査対象

調査方法は、古屋によるインタビュー形式とした。アンケート調査の形式を取らなかった理由は、本調査の意図を理解して頂いたうえで、本学教員の本音を聞き出したいからであった。

調査対象は、これまでに全学共通教育センターや各学部において、1、2年生を対象とする基礎的な教育に深く携わって来られた教員や各学部の教務委員長や教務委員経験者等をリストアップし、インタビュー時間の予約が取れた教員から実施した。

各教員の本音を聞き出すという目的のために次の二点に留意した。一つは、ゆとりのある時間と場所を選ぶことであり、結果として夕方にインタービュアーが研究室を訪問するケースが大部分となった。二つ目は、インタービュアーが結論を誘導することなく、また他の教員へのインタビ

ュー内容も知らせず、自由に語って頂くことである。記録はすべて手書きのメモを残すだけとし、録音はしていない。手書きメモとインタビューアーの記憶をもとに、可能な限り、インタビュー当日のうちに記録を整理した。

このような調査方法を採用したため、各教員の本音をかなり引き出すことができたと考えている。しかしながら、その代償に客観性が多少犠牲になったことは否定しない。

一方、徳島大学教員の意見との比較のため、徳島県内の高等学校教員や徳島県教育委員会の各教科の指導主事との懇談も行なった。しかし、ここでは徳島大学内におけるインタビューに報告を限定する。

## 3. インタビューの現状

本調査は2012年7月18日から開始し、11月13日現在で33名を数える。インタビューに要した典型的な時間は1時間半である。なお、インタビューは現在も進行中であることを付言しておく。

## 4. これまでの調査のまとめ

多くの教員から寄せられた意見のうち、高い頻度で顕われたものを列挙する。

- 10年以上前の学生に比べ、良い意味でも悪い意味でもおとなしく、まじめになった。
- 10年以上前の学生に比べ、数学や理科の基礎的な学力や計算力が落ちていることはほぼまちがいない。
- 10年以上前の学生に比べ、プレゼンテーション能力は著しくあがった。

- 10年以上前の学生に比べ、チームで作業したり、グループで討論する能力は下がった。
- 10年以上前の学生に比べ、理文を問わず、文章力が落ちたことは明らか。

徳島大学の学生の文章力を底上げしなければならぬと考える教員は極めて多い。しかし、その対応は、ほぼ等しい割合で次のように三分する。

- この問題を私は強く認識しており、講義やレポート添削を通じ、指導を実践している。
- 特に系統立って指導はしていない。その理由は、(1) 具体的な方法論がわからないから、(2) 指導方法を私なりに編み上げたが、それが普遍的なものか自信がないから。[回答としては(2)が多い]
- 学生の文章力を改善する問題に正面から手をつけると大変な労力を要するので、私は個人としては取り組みたくない。

## 5. まとめと今後

これまでにインタビューを実施できた数は33名であり、限定されたサンプルであるが、本学教員の認識をそれなりに反映しているものと考えられる。インタビューに応じられた方は、現状認識を述べられるだけでなく、それぞれの立場から解決案を提案して下さった。それらの示唆を集約し、ひとつでも多く実行に移してゆくことが、我々に課せられた使命であると考えている。

### 【講演の発表内容予告】

多くの教員から寄せられた、生の声や本音を紙面に残すことはできない。そこで、講演では、これらの声を論評を交えずに紹介したい。

### 【謝辞】

多忙のなか、快く時間を割いて下さり、きわめて率直な意見を寄せて下さった、すべての皆様に深く感謝致します。